

日体オリンピック寄付金のお願い

学校法人日本体育大学は「体育」を通じて世界に貢献します。

ご支援をお考えの皆様へ

2020年東京 オリンピック・パラリンピック育成強化推進事業

学校法人日本体育大学は創立爾来、日本人の健康・体力、そして心づくりに徹し、現在においては競技力を通じて、国際社会の平和づくりにも貢献しつつ国民に夢と希望と勇気を与え、8万有余の同窓生が各界で活躍しています。

オリンピックの原点を考えますと、古代ギリシャのオリンピック都市国家同士で常に争いが絶えず、争いではなく、競技で勝負し、その間は、争いを中断する休戦期間というものでした。それが起源であり、まさに本法人が目指している「競技力を通じて、国際社会の平和づくりに貢献する」という精神そのものです。

寄付金は、新たな競技スポーツ施設の確保や、選手個人の強化、選手をサポートするコーチ陣の充実、オリンピック大会を支えるボランティアスタッフの育成等といった、ハード面とソフト面の両面の充実に充てると同時に、ナショナルチームへの施設提供や情報交換、ひいては全国へのオリンピックムーブメント醸成に繋がたいと考えております。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、学校法人日本体育大学として最大限の貢献をいたしたく、ぜひとも皆様方のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



寄付金お申込み方法

寄付金の詳細は、下記に記載のWebサイトをご覧ください。Webサイトでは、手続きに便利な「お申込みフォーム」を提供しています。ぜひご利用ください。Webサイトへは下記のURLからアクセス可能です。その他ご不明な点は「寄付金各種お問い合わせ」までご連絡ください。

※各設置校で個別に実施している寄付金事業については、各学校へお問い合わせください。

WebサイトURL

<https://www.gaku-nittai.ac.jp/donation.html>



ご寄付に対する税制上の優遇措置

当法人に対するご寄付は、税制上の寄付金控除の措置を受けることができます。必要となる書類は、寄付金の入金が確認でき次第、ご送付させていただきます。

寄付金 各種お問い合わせ

学校法人 日本体育大学 法人事務局 総務部 経理課
〒158-0081 東京都世田谷区深沢 7-1-1
日本体育大学 東京・世田谷キャンパス内
TEL : 03-3704-5201 FAX : 03-3704-3336
E-mail : kifugaku-nittai.ac.jp



にったいじん

「日体人」を揮毫させていただく光栄にあずかった。日体大は、体育・スポーツの指導者、研究者を育成する日本を代表する単科大学として歴史を積み重ねてきた。

そのキャンパスで学んだ同窓は、エッサッサ、荏原体育を無心で演じてきた同志である。理不尽さに耐えつつ、常に夢を描き、犠牲的精神を発揮する習性を身につけた異色な人類。それが「日体人」だと私は実感している。

この人類は、同窓の絆を財産以上に大切にする習性をも身にまとう。われらの誇りである。日体大は小さいかもしれぬが、その存在感は計れぬほど大きい。

(2012年11月創刊号より抜粋)

日本体育大学同窓会誌

vol. 9

日体人

20
NITTAI-JIN
20



会長 塩谷 和雄 続「黎明」希望のステージへ 多様な絆と新しい活動様式を求めて	2
理事長 松浪 健四郎 新時代にふさわしい日体大のあるべき姿	4
常務理事 今村 裕 コロナ禍における戦略-日体大の将来展望に立って-	6
学長 具志堅 幸司 2020(令和2)年を振り返って-コロナ禍の対応-	7
オンライン(遠隔)授業からみえてきたもの	8
入試(志願者動向)が教えてくれるもの	9
令和元年度 事業報告	10
「民間・企業人全国大会」報告	12
同窓会誌発行協力金について	16
日体大アスリートサポートシステム・NASS	18

日体人 NITTAI-JIN 2020 Winter Vol.9

日本体育大学同窓会誌【日体人】VOL.9 2021年1月22日発行 発行・編集/日本体育大学同窓会
TEL: 03-3704-0266 FAX: 03-3704-1817 URL: <https://www.nittai-club.com/> 制作協力/株式会社ヴァンダス

続「黎明」 希望のステージへ 多様な絆と新しい活動様式を求めて



日本体育大学同窓会
会長 塩谷 和雄

はじめに

会員の皆様には、平素より本会の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。また、法人、母校、そして、保護者会の皆様方には、日ごろ同窓会の活動を温かく見守っていただき、心より感謝致しております。

私儀、前任の瀧澤康二氏より会長職を継承し、はや年度末を迎えようとしております。この間、コロナ禍により、新年度体制でのスタートが遅れたことに加え、一堂に集っての会議や諸事業を中止・凍結する事態となり、会員の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。とりわけ、改編された全国7ブロック体制での新たな地区協議会(通称:ブロック会議)も断念せざるを得ず、開催支部はもとより、各所属支部の皆様には困難な対応に労を取っていただきました。この場をお借りして、衷心より御礼申し上げます。

「黎明」を継承、 第3ステージへ

本項「黎明」を語る前に、触れておかなければなりません。

それは、危機的状況にあった同窓会の運営基盤づくりに一縷の望みをかけ、再生への道筋をつけてくださった先々代の確井進元会長、鈴木洋祐元幹事長をはじめ当時の本部役員の皆様、そして、法人・松浪健四郎理事長、母校・

谷釜了正前学長など、関係各位の多大なご尽力があってこそ、今日の礎が築かれたことでもあります。

何より、大学当局と保護者会のご理解のもとで実現した校友課の設置と準会員制度の発足によって、新たな一歩を踏み出すことができ、「黎明」へとつながったのであります。

かくして、同窓会の新時代を開くべく、平成26(2014)年度からの3年を「黎明期」、次の3年を「黎明・第2期(セカンド・ステージ)」と銘打ち、瀧澤前会長の陣頭指揮のもとで活性化策が施され、今に至っています。

詳細は、「別表1:同窓会事業の年次推移」をご参照ください。

▼ 別表1:同窓会事業の年次推移

項目	年								
	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31/R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4
国際イベント等			リオ W杯	平昌 冬五輪	ワ杯 W杯	ワ杯 ワ杯	コロナ禍	東京 W杯	北京 冬五輪
周年	123	124	125	126	127	128	129	130	131
日体フェスティバル	世田谷	鎌倉台	世田谷	鎌倉台	世田谷	鎌倉台			
体育研究発表実演会	笑/和/群	東京	和/和	東京	南/和	東京			
活性化推進基本計画	アクションプラン	【黎明】第1ステージ	【黎明】第2ステージ	【黎明】第3ステージ	【黎明】第3ステージ	【黎明】第3ステージ	【黎明】第3ステージ	【黎明】第3ステージ	【黎明】第3ステージ
体育学部	62期	63期	64期	65期	66期	67期	68期	69期	70期
児童・幼児学部	2年	3年	4年	1期	2期	3期	4期	5期	6期
保健医療学部	1年	2年	3年	4年	1期	2期	3期	4期	5期
法・文化学部	—	—	—	1年	2年	3年	4年	1期	2期
法・経済学部	—	—	—	—	1年	2年	3年	4年	1期

※ 赤字は今年(予定)

※ 学部新設・学生のキャリア多様性、会員の職業多様性、ライフステージや分野・領域に応じた支援

活性化への試行錯誤

事業実施後のアンケート結果等を集約すると、相応の成果がうかがえるものの、そうした収穫の果実や教訓が、その後の組織活動や活性化に十分に反映できなかったと自省しています。他者と共有されない学びや一過性のイベントで終わることのないよう、既存の取り組みを反芻しながら、次の手立てを講じてまいりたいと思います。

次に、組織体制についてですが、前述の通り、懸案の「ブロック改編」が実現する運びとなりました。現行の6ブロック体制から、保護者会と歩調を合わせた7ブロックへと編成替えを図ったので、「関東」と「近畿」がそれぞれ独立

するとともに、「北信越」と「東海」が新設合併、今年度からの施行となりました。

この間、特に旧「関東・北信越」及び「近畿・東海」両ブロックの皆様には、度重なるご協議をいただくなど、大変なご苦勞をおかけしました。実質的な船出は先送りとなりましたが、「団結和協」の絆、保護者会との連携が深まるよう切に願っております。

一方、本部組織について、平成29年度に委員会体制を発展的に解消し、「チーム・部門」制を導入するとともに、役員会の下部に「執行部会」を新設するなど、組織活動の効率化を試みたところです。その背景には、企業人や女性役員への積極的な登用がありました。

「別表2:同窓会本部役員構成比」をご覧いただければ、そうした変化へのチャレンジがご理解いただけるものと思います。

第2期目の総括をする中で、瀧澤前会長は次のような回顧録を残されています。

「私は、前半3年間の反省から先ず本部の組織改革を提案させて頂きました。それは事業計画が即実行に移せる組織でなければならないとの考えからでありました。会長を中心とする「執行部会」制度を設けさせて頂きました。組織改革と同時に必要なことは役員人事です。そこでは過去の慣習に囚われることなく適材適所の原則を重視しました。

2期目の1年目、2017年度の新役員を迎えた最初の役員会でハプニン

▼ 別表2:同窓会本部役員構成比

項目	「黎明」第1期:平成26(2014)年度~平成28(2016)年度			第2期:平成29(2017)年度~平成31・令和1(2019)年度		
	第1期	第2期	備考	第1期	第2期	備考
年齢比	平均年齢 64歳	58歳	→約6歳	平均年齢 64歳	58歳	→約6歳
男女比	最年長 75歳	75歳	ブロック長	最年長 75歳	75歳	ブロック長
	最年少 36歳	26歳	大学助教	最年少 36歳	26歳	大学助教
	計 27名	28名		計 27名	28名	
職域別	教職・公務員 25名(93%)	20名(71%)	-5名	教職・公務員 25名(93%)	20名(71%)	-5名
	民間・企業人 2名(7%)	8名(29%)	+6名	民間・企業人 2名(7%)	8名(29%)	+6名
	計 27名	28名		計 27名	28名	

グが起こりました。それは、新役員と旧役員の間で生じた大きな意見の相違から生じたものです。大切な役員会のスタート時点で混乱を招いた責任は会長にあります。改めて関係各位に謝罪しなければなりません。一方でその混乱に感謝しています。なぜなら、その混乱は極めて重要な議論であり、同窓会活性化の第1歩であったと思っていますからです。一見矛盾しているようですが、そうではありません。この議論によって、旧役員も新役員もアウフヘーベン(Aufheben=止揚)できたからであります。(後略)」「2017~2019年度活動総括(瀧澤前会長作成)」より引用

母校の進化に適應し、若き獅子たちを本会に迎え入れ、郷土に誘(いざな)うには、まだまだ「夜明け前」の同窓会です。

改革や刷新のプロセスで生じるジレンマ、対立や矛盾は今後も活性化の途上において、本部・支部を問わず、あちらこちらで起こることが想像できます。いかなる難局に当面しようとも、粘り強い対話を重ねながら、目前に横たわる課題の解決に向けて取り組んで行こうと、決意を新たにいたしました。そうした意味合いもあり、「黎明」を継承し、今期を「第3ステージ」と位置づけて、前に進むことに致しました。

学生への緊急支援

コロナ禍の影響による困窮学生の存在が深刻な問題となっています。母校においても、保護者の収入や自身のアルバイト等の影響で退学を余儀なくされるような学生が多数存在しているとのこと。同窓会としても、困難な状況に置かれ、修学を断念せざるを得ない学生(準会員)に対して、迅速に支援の手を差し伸べることが重要と判断し、5月の臨時代議員会(通信)にて緊急提案。全会一致で法人の「雄渾奨学金」への寄付金拠出を行わせていただきました。

誌面をお借りして、全国同窓会の皆様に改めて御礼を申し上げます。

新しい生活様式、 ウィズ(With)コロナ

昨年度は、重点イベントを担った民間・企業部門を除き、執行部会やチーム・部門のミーティングを定期開催することができませんでした。本部役員若返りなどの刷新を図ったものの、大学・企業・行政機関等に就任する現職者が多く、多忙を極める中で、話し合いの場づくりや協議時間の確保が難しいことが主な理由でした。また、スケジュール調整が叶った民間・企業部門でさえ、夜間や土日開催となり、家庭生活や仕事へのシワ寄せが生じたり、折からの「働き方改革」に逆行せざるを得ない結果となりました。

現状打破に向けて、会議の在り方等を模索していたところへ、突如やって来た新型コロナウイルス。感染拡大の脅威や医療崩壊・経済危機をめぐる不安が絶えない生活が続いていますが、そんな中で、不自由さの打開や人との接触を減らすための「新しい生活様式」、長期戦や撲滅困難を前提とした「ウィズ(With)コロナ」など、共生・共存の戦略も唱えられています。

同窓会活動においても、感染防止対策は当然のこととして、会員・役員の情報スキルを考慮しながら、オンライン会議システム等の新たな活動様式、モノ・コトのデジタル化、会議・稟議の仕組みづくりなどを模索・研究してまいりたいと思います。

むすびに

法人のビジョンや母校の様子を、一堂に会して直接伺う機会がゼロに等しく、例年に比べて情報量が著しく不足している現状です。そうした意味で、本誌第9号の発刊意義は極めて大きいものと思っています。ホームページ情報と合わせてご覧いただき、熱いメッセージを受け止めていただければ幸いです。

新時代にふさわしい 日体大のあるべき姿

学校法人日本体育大学
理事長 松浪 健四郎



はじめに

新春を迎えたとはいえ、まだまだ新型コロナウイルスに苦しめられそうです。世界経済をはじめ、このウイルスによってすべてが狂わされました。毎日が非日常生活、しかしこれだけ長く続くと、非日常が悲しいかな日常となっています。マスク着用、手洗い消毒、検温が常識となり、あらゆる活動が中止、縮小の有様、残念な状況下に置かれました。

同窓会活動も、大学のあらゆる行事も中止せねばならず、皆さんとの交流もできずじまいでありました。そんな中、レスリング部や柔道部でクラスター、大変ご心配をおかけしました。本学にとどまらず、あちこちの大学でもクラスター発生、スポーツ活動の難しさも教えられました。

本稿では、今後の日体大の展望について記述させていただき、このピンチをチャンスに転じさせようとする心意気を汲み取っていただければと存じます。

コロナ禍対策

卒業式も入学式も挙行できず、学生たちの大きな想い出を失った苦しみは、全教職員の重荷となりました。新入生は授業を受けることができないばかりか、同級生の顔も見ずに大学生となったのです。授業はコンピューターを用いた遠隔授業となったものの、実技や実習は難しいものとなりました。

理事会、評議員会では、アルバイトができず困っている学生を支援するため、また授業料の支払いができないでいる学生を支援するための「雄渾奨学生」制度に、多くの教職員や同窓、また一般の皆さんから寄付をいただきました。くわえてクラウドファンディングで、スポーツ活動

する学生支援のために協力を呼びかけたところ、目標額を越す寄付をいただきました。有難いかぎりです。

日体大を応援して下さる人たちが全国にいることを改めて実感させていただき、心強く感じました。「コロナに負けるな」という激励と受け止めました。

キャンパス整備

横浜・健志台キャンパスも古くなって参りました。その中でも、火事によって教室不足を補うために建設された建物は、素晴らしいキャンパスを汚している印象を受けます。その建て替えは焦眉の急となっています。

どうせ建て替えるのなら、ランドマーク的な、シンボリックな美しい建物にすべく、横浜市と協議中です。新しい時代を迎えるにふさわしい新生日体大の建築物にしたいと計画中です。図書館、食堂、トレーニングセンター、教室、研究室等を設置し、名門としての体裁を整えねばなりません。魅力的なキャンパスを持たないことには、少子化の波に流されてしまいます。

充実した東京・世田谷キャンパスの次は横浜・健志台キャンパスに力を注ぎ、「身体にまつわる文化と科学の総合大学」にふさわしいキャンパス造りに邁進します。着実に地歩を固め、体育・スポーツのリーディング大学として誇れる施策を講じて参ります。もっともっと立派にする必要があります。ただ、コロナ禍の影響で事業は凍結中です。

新学部構想

日体大はすでに5学部を設置し、その上に修士号、博士号を取得できる3研究科の大学院も設置しました。7年前、「医療も日体大のフィールドだ」と謳える保健医療学

部を新設、多くの卒業生が全国で活躍してくれています。

超高齢社会が続きます。医療分野の人材養成が急務となっています。また女性の進学率も考慮すれば、「看護学部」のニーズの高さに応えるべきだと考えます。まだまだ不足する看護師、日体大もこの分野に参入したいと思えます。

人口減少に歯止めがかからず、毎年50万人以上の日本人が減っています。経済や社会保障制度(保険、年金)の劣化を防ぐためには、外国人労働者を入国させるしか方法がありません。政府は、そのための法律も次々と改正しています。社会不安、治安悪化、薬物氾濫、テロ対策等を考えた時、その任に当たる人材の育成に乗り出したいと研究中です。武道や外国語のできる国際性にとむ現代のサムライを輩出したいものです。とりあえず、この構想もコロナ禍で凍結中です。

学生募集傾向

日体大も東京の有力大学と同様、6割を超す学生が首都圏から入学しています。この傾向は、まだまだ続くでしょうし、女子学生は地方からの受験生としては極度に減少中です。コロナ禍もあるでしょうが、東京での生活は金銭的に容易でなくなっているのも現実です。

全国区の日体大といえども、地方からの受験生の減少は避けられません。地元の大学に進学する傾向は高まっているゆえ、日体大の魅力をさらにアピールして行かねばなりません。また、同窓会の協力も必要ですし、各種行事も日体大宣伝のために行っていただきたいと存じます。日体大ネットワークを大切にしたいとも思います。

日体大の設置高校である荏原、柏、桜華、浜松からの入学者も増加しています。レベルの向上もさることながら、日体大人気の上昇が理由の一つであります。「ワンファミリー政策」が浸透し、関係者の協力や努力が実を結びつつある現実はうれしいかぎりです。

学生たちの活躍

昨年は、あらゆるスポーツの祭典が中止に追い込まれました。しかも十分に練習ができない環境下に学生たちが置かれ、上京できない学生も多くいました。それでも活躍してくれた競技もありました。団体・個人ともにコロナ禍に負けず、頑張ってくれたのです。

野球部のリーグ戦優勝、そして中日ドラゴンズにドラフト2位で指名された森博人選手。相撲部は東日本大会は完全優勝、全国大会は惜敗したものの準優勝、そして留学生のプレブスレン・デルゲルバヤル君が学生横綱に輝

きました。あの上手な日本語でのNHKのインタビューに泣かされました。また、全日本選手権大会で1年生の花田秀虎君が優勝、アマ横綱となりました。

レスリング部も内閣総理大臣杯で優勝、ソフトボール部もチャンピオンの座につきました。最悪の状況下でも日体大健児が活躍してくれるのは、やはり伝統の力です。先輩たちが築いてくれた歴史、私どもには死守する責任があり、優れた人材を集めねばなりません。そのための魅力づくりも忘れてはならないと自覚しています。「選手強化」は生命線、全学あげて強化に取り組みます。

近年の進路先

昨年も日体大は全国の中高校の保健体育教員の合格者はNO.1でありました。小学校教員も65名が合格、教員養成の旗印は元気よくなびいております。とはいえ、昔日のごとく募集数は多くありませんので、学生たちは多種多様な所に就職しています。各企業の評判もよく、日体大生に大きな期待が寄せられています。偏差値の高い学生も多数いますので、上級の公務員や一流企業を目指す学生のためのサービスを盛んにする必要があります。

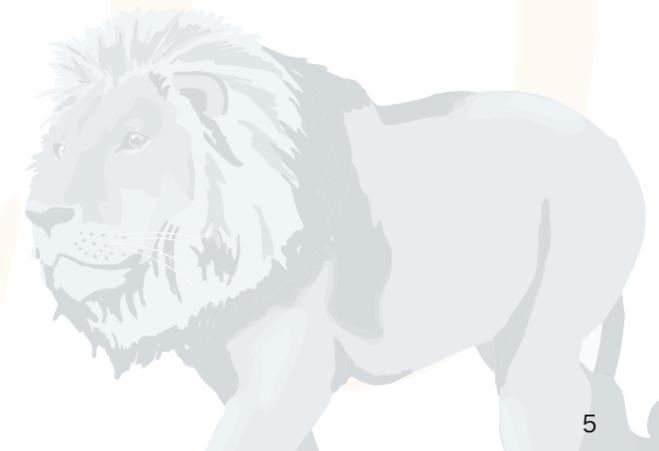
まとめ

創立130周年を迎えた今年、日体大はさらに挑戦して参ります。卒業生が胸を張って誇れる大学にする使命が、卒業生でもある私にあると痛感しております。ただ強いというだけでなく、高等教育機関として有為な人材を輩出する大学でなければなりません。

今までのイメージも大切ですが、さらに飛躍させて、医療分野と社会科学分野にもウイングを伸ばし、学生数1万人の大学を目指します。

卒業生の皆さんのご理解とご協力をお願いし、皆様のご多幸とご健勝を祈念します。

昨年6月の理事会、評議員会で、私は理事長の継承を命ぜられ、今村裕氏を常務理事に選任させていただきました。2人のタッグで日体大を前進させる覚悟しております。



コロナ禍における戦略

—日体大の将来展望に立って—

学校法人日本体育大学
常務理事 今村 裕



2020年6月、再任を受け日体大を筆頭に10校の設置校の安定した経営と発展の為、誠心誠意尽くすことを誓った。新型コロナウイルス感染症が拡大を続ける正に、その真っ最中であった。

新型コロナウイルス感染症拡大の終息(治療薬・ワクチン開発)を考えると、この先最低3年から5年を目処に組織基盤維持のための対応に迫られている。大学を含め10校の設置校をかかえる組織としては、それぞれの責任者ができる限り早い時点で、直面するであろう危機に耐えうる方策を立てる必要がある。それに先んじて、「一人の退学者も出さない方策」として、学びのための奨学金(雄渾奨学金)の寄付金募集を始めた。さらに、本法人では初の試みとなる、クラウドファンディング方式の寄付金募集も行った。これらは、多くの方々のご支援をいただき、わずか2ヶ月で合わせて4600万円の寄付金を募り、それなりの成果を上げた。また、寄付金に加え予備費を合わせて1億円の経済的支援策を組むことができた。それは、学生が相談に来て経済的支援策がないのでは徹底した退学防止は難しいと考えたからである。コロナ禍により学費の延納希望者が続出したとのことから、納入期限の延長を決め、徹底した退学防止の対策を講じた。

そして先般10月、後学期の学費納入の依頼通知を出した。授業は前学期より引き続き、ほとんどがオンライン方式。学生がその授業内容に納得をしているか、さらに授業内容含む配信方法を研究し、対策等を考慮する必要がある。

現状だけを見れば、日体大の経営が直ちに危機に瀕する恐れはない。しかし、数ヶ月後には、国内の景気低迷の

影響をうけ、日本社会が歴史上経験したことのない、未曾有の経済的危機が到来することも考えられる。そして、退学者は確実に増加することが予想される。そのため、トップにあっては常に学生・生徒の家計状況の変化に目を配るとともに、相談窓口を充実させることにより、学生や保護者の不安・不満の「不」をいかに取り除き、安心・満足を提供することにより、万が一にも「突然の退学」という事態を事前に阻止することが喫緊の課題である。

そんな中で学校法人日本体育大学では、法人・大学として横浜・健志台キャンパス将来構想についての検討に取りかかりつつある。

自然環境と調和した、安全・安心で市民の健康づくりに寄与する持続可能なまちづくりをコンセプトに再開発を構想している。横浜・健志台キャンパスは都市計画による市街化調整区域、高さ20m制限等を受けており、その変更・緩和を求め、都市計画提案書を横浜市に提出した。そして今回、一部修正後、都市計画市街化区域、高さ40m制限等承認への決定・変更の必要性が認められ、計画の説明会、縦覧、公聴会等を経て、予定通り進めば2021年11月に決定・変更が告示される運びとなった。

我々には、先人がたゆまぬ努力によって築きあげてきた日体大の歴史と伝統を受け継ぎ、さらに発展させていく責任がある。これから進むべき道は容易なことではないが、次代を担う若者たちの未来に責任を持つ大学となるべく、さらに邁進していく覚悟である。

『大学が試されている。』『組織が試されている。』

『教育界が試されている。』

『変わらぬご支援を切にお願いいたします。』

2020(令和2)年を振り返って

—コロナ禍の対応—

日本体育大学
学長 具志堅 幸司



昨年2020(令和2)年2月26日、わたしたちは国内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大が顕著になったことを受け、「日本体育大学危機管理規程」にもとづく危機管理委員会を開催し、あわせてその対処にあたるべく危機対策本部を設置致しました。

まずは、目前に控えていた卒業式・学位記授与式、入学式への対応を含め、その基本的な考え方を第一報(「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」:令和2年2月27日)としてにまとめ、学内外に周知したところです。

新年度を迎えると、入学式はもとより、様々な大学行事・イベント、活動が変更・延期、あるいは中止を余儀なくされました。

とりわけ、前学期の授業開始を5月第1週に繰り下げ、全12週(回)、原則、通学を要しない非対面式授業を初めて展開することとなり、各授業担当者は、従前の授業に劣らぬ教育の質を確保すべく、入念にその準備に取り組みました。

その後は、本学キャンパスが所在する東京都、神奈川県にそれぞれ発出されていた緊急事態宣言・緊急事態措置が解除(5月25日)されると、学生及び教職員の安全確保(生命・健康の保護)を第一義に、「新しい生活様式」のもとに、これまでとは違ったかたちでそれぞれの活動を段階的に認めていく旨、決定しました。

その基本的な考え方は、「日本体育大学新型コロナウイルス感染症対策基本方針」及び「新型コロナウイルス感染拡大防止のための日本体育大学活動指針」(令和2年6月9日)として報知するとともに、個別の活動(教育・研究・

社会貢献他)についても、安全・安心に取り組めるよう、それぞれガイドラインを策定しました。

「実践と理論の一体化の試み」をすべての活動の基軸とし、直接的な「知と技」の対面による教授(指導)にこだわり、体育スポーツ学、教育学、保健医療学の奥深さや面白さ、醍醐味などその神髄を伝えてきたわたしたちにとって、当初は「実践」の場を奪われたことが極めて残念であり、歯がゆさを感じずにはいられませんでした。

しかし試行錯誤を重ねていくなかで、想像を遙かに超える新たな成果(叡智の結晶)が生み出され、あらたなよろこびを実感したことも確かです。

こうした新しい教育の在り方はもとより、研究の進め方、地域社会との繋がり方、さらには、スポーツ活動への関わり方など、いずれも本学が先駆けとしてその姿(「日体大モデル」)を積極的に発信し、時代や社会の期待・要請にしっかり応えていきたいと考えています。

ところで去る11月15日には、東京・世田谷キャンパスのメインアリーナにて、学部・大学院研究科の新入生を対象とした、入学歓迎式を挙行政致しました。およそ900名の学部生・大学院生が出席し、およそ7ヶ月遅れとなりましたが、その大切な節目を迎えることができました。

今後どんな状況に直面しようとも、わたしたち教職員は一丸となって、日体大の「強み」を見失うことなく、継承・進化させていかなければならないと考えております。

オンライン(遠隔)授業からみてきたもの

お伝えしているとおり、今年度(2020(令和2)年度)は、前・後学期を通じ、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン(遠隔)にて授業を展開してきました。

本学の「Web サービス学生支援システム(nssu-passport: 略称 n-pass)」のクラスプロファイルを主軸に、授業資料の配信や課題の提示・回収をはじめ、小テストの実施、質問・問合せの受付(Q&A)、意見交換(「クラスフォーラム」)などが積極的に展開されています。

とくに後学期からは、オンラインあるいはオンラインと対面式のハイブリッド授業が一部実施されており、我々教職員にとっても初めてのことが多く、まったく戸惑いがなければなりません。

それでも、授業の準備や資料の作成に、それぞれの教員は、これまで以上に多くの時間を費やし、学生に最高のものを届けようと余念がありません。

とりわけ実技系科目を中心に、映像配信等(Zoom や Microsoft Teams 他)を多用して、「動き」の詳細をより解りやすく伝えられるように心掛けられています。

平日であれば、夜遅くまで研究室には灯りがついています。

土曜日、日曜日の研究室の扉には、「授業録画中」と貼り紙が出されていることも少なくありません。

本学では、前学期授業の開始前(4月)に、オンライン(遠隔)授業実施に関するプロジェクトを編成し、n-pass あるいはビデオコミュニケーションツール等を用いた効果的な授業の在り方について、検討を重ねてきました。

また、前学期の授業終了後には、全学 FD を実施し、先進的な授業実践に関する情報の共有と相互の研鑽に努めてまいりました。

こうした非対面式授業の実践については、学報 NITTAIDAI 第62号(「オンライン(遠隔)授業の検証と展望」)にも纏められ、後学期の授業展開に活かされています。



資料配信型授業

- 資料枚数など気にせず提示でき、課題・テスト結果を瞬時に回収できることから、統計データ処理が容易である。
- 学生は、時間帯・場所に拘束されることなく、生活の自由度が増す。
- 学生へのフィードバックに多くの時間を要し、履修者が1,000名超の授業担当者は負担が大きい。

双方向型授業

- リアルタイムで教員・学生間のやりとりができ、対面式授業に近い感じがする。
- 通信・機器環境によっては、授業に参加することができない。

動画配信型授業

- オリジナル動画の撮影・編集に多くの時間を要する。

主として、講義を担当する教員からは、「学生は資料をよく読み、課題に取り組んでおり、その評価は高く、遠隔授業でも十分に教育目標は達成できた」とその効果を実感する声が数多く聞かれました。

一方、実技(演習・実験・実習等)を担当する教員は、「学生に実技の動画を撮影・送付させ、双方向で確認するなどの工夫を凝らすことで、学生の満足度と一定の手応えが得られた」と動画配信に期待(可能性)を見出すものもあれば、「臨場感や動作の特性を体得できたのか、その確認方法にさらなる検証が必要ではないか」との課題が提示されました。

すべての授業担当者にアンケートを実施しましたが、その

6割超がオンライン(遠隔)授業の効果を認めています。しかし対面式授業には、教場における一体感、その場にいる教員と学生との間で空気や感情、表情などを共有できることが大きな醍醐味(魅力)としてあります。

単なる知識や情報、技術の教授だけにとどまらない、さまざまな「生き方」を伝え(感じ)ることも大切な時間ではないでしょうか。

体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における「知と技」の直接的な教授にこだわり、その深奥を窮めてきたわたしたちにとって、一回性、同時性も授業の重要な要素だと改めて教えられたように思います。

入試(志願者動向)が教えてくれるもの

ところで本学はこれまで、入学試験において、体育スポーツ学、教育学、保健医療学の各分野に強い興味や関心のある受験生のさまざまなニーズに応えられるよう、その選抜方法の改善に努めてきました。

とりわけ、2012年度入学者選抜より、さまざまな尺度を用いて、受験生個々の「強み」を適正に評価する仕組み(選抜区分)を順次構築し、その方向性は現在、つぎのように類型されます。

競技力に秀でた人材 (トップアスリート)の さらなる獲得に向けて

- 「総合型選抜」
(トップアスリート[競技実績]型)
-
- 「総合型選抜」
(運動実績型)
-
- 「学校推薦型選抜」
(スポーツ推薦)

意欲や情熱、明確な ビジョンを有する人材 の発掘を目指して

- 「総合型選抜」
(課題探究型)
-
- 「学校推薦型選抜」
(一般推薦)
-
- 「学校推薦型選抜」
(指定校推薦)
-
- 「特別選抜」

高い学力を備え、知的 好奇心に溢れた人材の 挑戦を期待して

- 「一般選抜」
(前・後期)
-
- 「大学入学共通テスト利用選抜」
(前・後期)

学部の増設にあわせ、このように新たな受験者層の開拓を進めてきましたが、現状は厳しい状況にあると認識しています。

18歳(受験生)人口が減少しているなかで、受験者数の増加を期待することは、本学に限らずすべての大学にとって避けては通れない大きな課題です。とくに今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響なのか、2020年12月までに実施した入試において、志願者数が前年度比 -300名超という結果となりました。

「コロナ禍」であることをその理由のひとつにあげることは否定しません。しかし、わたしたちはこればかりを減員の要因として良いのでしょうか。なぜならこのような状況下でも唯一、体育学部体育学科は志願者を100名程増員しているからです。

これまで実施した「総合型選抜」「学校推薦型選抜」はいうまでもなく、本学を第一希望とする受験生がチャレンジする入試区分です。ここで大きく減員となっていることについては、真摯に受け止めなければなりません。

各学部・学科の魅力(特長:他大学との違い)を鮮明に打ち出すことができているのか、受験生にその「強み」がきちんと理解されているのか、あるいはそれを丁寧に我々教職員が伝

えてきたのか、全学を挙げて正面から検証する必要があります。

本学の受験動向(入学情況)を観ると、体育学部を第一希望とする受験生(入学生)が圧倒的に多く、その他の学部は、第二・三希望で受験(入学)している学生を相応に迎え入れている実態も確認できます。

ここ数年来、いわゆる大規模(総合)大学が、体育スポーツ学系統の学部・学科設置に乗り出し、本学のライバル校は、全国48大学58学部にも及びます。つまり、高い競技力を有する高校生(受験生)の獲得はさらに熾烈を極める状況です。

ここでも日体大の「強み」を全教職員で共通に理解する必要があります。そのなかでさらに各学部・学科は、それぞれの個性(特長)をどう打ち出していくのか、いままさに、教育内容(質の充実)が問われているのだと痛感しています。

本学を取り巻く情況の精確な分析(これまでの学部・研究科(専攻)の新・増設による「量的拡大」への真摯な検証)を踏まえ、これからの日体大のあるべき姿を、すべての構成員の叡智を結集し、つぶさに描き出していかなければならない、そんな時機にわたしたちはいま立っているとの認識を有しているところです。

全国規模研修会等

新年度の始まりを飾る入学式は、母校日体大の平成時代を締めくくる思い出深い一大行事となりました。

令和元年度は5月役員会を経て、代議員会を定例開催。重点事業を「民間・企業人全国大会」とし、懸案の「ブロック改編」や諸事業が全国都道府県支部の協力により、順次予定通り推進されました。

新年を迎え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和元年度卒業式は一堂に会しての開催が叶わず、学位授与等の厳粛な儀式は開学以来例を見ない個別対応となりました。そうした中、オンラインなど多様な媒体を通じて、多くの皆さんから卒業生、保護者・ご家族の皆さんに向けて、温かい励ましのメッセージや力強いエールが送られました。

なお、事務局長会議は各地区協議会時に分科会開催、教育実習巡回指導反省会は各支部において行われました。

平成31年4月3日(水)

日本体育大学入学式

東京・世田谷キャンパス

- 瀧澤会長ほか本部役員が出席



令和元年6月1日(土)・2日(日)

全国代表者会議(代議員会)

東京・世田谷キャンパス

第1日目(午後)

- 第1部:瀧澤会長挨拶の後、法人より松浪理事長及び今村常務理事の挨拶・講話
- 第2部:学長挨拶及び大学より入試・就職状況等説明、質疑応答
- 会議終了後、学長招待懇親会(N レストラン)

第2日目(午前)

- 事業及び決算報告
- 事業計画及び予算案審議等
- ブロック打ち合わせ

令和元年11月2日(土)

民間・企業人全国大会

横浜・健志台キャンパス

※P12～15にて別途詳細報告

令和2年3月15日(日)

日本体育大学卒業式

※新型コロナウイルスの影響により開催中止

役員会

第1回 令和元年5月18日(土)

東京・世田谷キャンパス

- 事業及び決算報告案
- 事業計画及び予算案審議等

第2回 令和元年11月30日(土)

東京・世田谷キャンパス

- 民間・企業人全国大会報告
- 役員選考関係
- 会則・2020ビジョン、懸案事項等

女子同窓の集い

令和元年5月26日(日)

関東女子同窓の集い(東京都)

令和元年8月25日(日)

近畿女子同窓の集い(大阪府)

令和元年8月31日(土)

北海道地区協議会(道東)で女性部会を開催

令和元年10月12日(土)

中国・四国女子同窓の集い(島根県)

※台風の影響により開催中止

令和元年10月26日(土)

東北地区協議会(宮城県)で女性部会を開催

令和2年2月15日(土)

九州女子同窓の集い(佐賀県)

本部挨拶 /
副会長 米山英津子
(女性代表)



役員選考委員会

第1回 令和元年12月16日(月)

- 通信による委員長選任等

第2回 令和2年2月22日(土)

東京・世田谷キャンパス

- 次期会長・監事の選考等

前記のとおり、改編により現行6ブロック体制では最後の開催となりました。担当支部におかれましては、大変にお疲れ様でした。そして開催にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

以下、開催順に会議や懇親会の様子を報告させていただきます。



令和元年6月8日(土)

九州地区協議会(沖縄県)



歓迎の挨拶 / 沖縄県 大城会長



懇親会 / 伝統芸能 地元同窓

令和元年7月13日(土)

中国・四国地区協議会(岡山県)



全体会 / 挨拶 松浪理事長



全体会 / 近況報告 具志堅学長

令和元年8月31日(土)

北海道地区協議会(道東・釧路市)



全体会 / 挨拶 松浪理事長



懇親会 / 余興の様子

令和元年10月26日(土)

関東・北信越地区協議会(新潟県)



全体会 / 挨拶 松浪理事長



全体会 / 研究協議

令和元年10月26日(土)

東北地区協議会(宮城県)



全体会 / 事業報告等



全体会 / 近況報告 具志堅学長

令和元年11月9日(土)

近畿・東海地区協議会(静岡県)



全体会 / 挨拶 松浪理事長



懇親会 / 歓談の様子

その他

令和元年6月28日(金)

大相撲七月場所 同窓力士激励会(愛知県)

令和元年10月27日(日)

大相撲十一月場所 同窓力士激励会(福岡県)

令和元年12月15日(日)

「北信越・東海地区協議会」設立準備会議

- 新ブロック体制の整備
(会則、開催ローテーション等)

令和2年2月29日(土)

大相撲三月場所 同窓力士激励会(大阪府)



北信越・東海地区協議会 / 設立準備会議



大相撲三月場所 / 同窓力士激励会

「民間・企業人全国大会」 報告

開催概要

令和元年11月2日(土)、日本体育大学 横浜・健志台キャンパス百年記念館1号館4階「1401教室」にて、全国から95名に参加いただき、「第53回日体フェスティバル」開催期間中に、同窓会初となる「民間・企業人全国大会」を開催しました。

大会プログラム前半 講演等

本大会は民間・企業人同窓生の交流を深め、その交流から学生や卒業生をサポートするOB・OG ネットワーク構築を開催の目的として、塩谷幹事長の開会宣言、瀧澤会長による主催者挨拶に引き続き、来賓に学校法人日本体育大学より松浪健四郎理事長、今村裕常務理事をお迎えしました。松浪理事長には【日体企業人に期待する!】と題し、基調講演をいただきました。



挨拶 / 瀧澤会長



基調講演 / 松浪理事長

時間	次第	登壇者・内容等
14:00	開会宣言	日本体育大学同窓会 幹事長 塩谷 和雄 (MC)
14:00	校歌斉唱	《義典節歌謡》
14:05	主催者挨拶	日本体育大学同窓会 会長 瀧澤 謙二
14:10	基調講演	講演「日体企業人に期待する!」 学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎
15:10	(休憩)	
15:20	情報交換会Ⅰ	PRタイム「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」 基調一語 講演者です。講演者自身で2019年度卒業生向けに「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」をテーマに、全国的に展開された。講演者自身で2019年度卒業生向けに「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」をテーマに、全国的に展開された。講演者自身で2019年度卒業生向けに「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」をテーマに、全国的に展開された。
16:20	情報交換会Ⅱ	活動事例紹介「都道府県支部の取り組み」 基調一語 講演者です。講演者自身で2019年度卒業生向けに「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」をテーマに、全国的に展開された。講演者自身で2019年度卒業生向けに「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」をテーマに、全国的に展開された。講演者自身で2019年度卒業生向けに「日体大卒業生として社会に貢献できたこと」をテーマに、全国的に展開された。
17:00	閉会宣言	日本体育大学同窓会 幹事長 塩谷 和雄 (MC)

大会プログラム / 前半



情報交換会 / 高橋一浩氏

その後、参加者による情報交換会Ⅰにおいて【日体大卒業生として社会に貢献できたこと】をテーマに、株式会社 土木管理総合試験所取締役 高橋一浩様、株式会社 Asentiv Japan 代表取締役 池田亜由美様より発表をいただき、続く情報交換会Ⅱでは活動事例紹介【都道府県支部の取り組み】をテーマに、富山県同窓会:小川博司様にユニークな取り組みをご紹介いただきました。

全国の民間・企業人同窓生が一堂に会するのは初めてのことで、準備段階から試行錯誤の繰り返しであったにも関わらず、当日、全国より95名の方に参加いただけたことは、民間・企業部門としても歴史的な一歩であり、関係各位に改めて感謝申し上げます。



情報交換会 / 池田亜由美氏

松浪理事長の基調講演では、昨今、卒業生の半数以上が民間・企業に就職していることから、本日の全国大会の重要性、並びに今後の同窓会活動が母校の発展にも大きく影響を及ぼすこと等を具体的に述べられ、改めて開催の意義を感じました。

また、登壇いただいた3名の方からは、在学中の経験と日体大同窓の絆が社会人になって大きな助けになったこと、地方都市での同窓会活動の問題点・解決策等を発表いただき、参加者にとって、今後の地元の活動に非常に参考となるヒントをいただきました。

最後に青葉台フォーラムへの移動に際し、P.23ご紹介の株式会社シティアクセス相模 代表取締役 大塚一義様に多大なるご協力を賜りましたこと、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。



活動事例紹介 / 小川博司氏

大会プログラム後半 懇親会

懇親会では、鎌田修広幹事による2つのアクティビティ(パス・チャレンジ/テーブルクロス引き)で会場内が和み、6ブロック長から民間・企業人への応援メッセージを頂戴し、参加者同士の名刺交換も活発に行われ、新たな絆が広がりました。



テーブルクロス引き



歓談の様子

大会プログラム / 後半

調査研究部門の協力により実施した参加者アンケート結果によると、情報交換会Ⅰ(日体大卒業生として社会に貢献できたこと)に対する期待度が約65%、情報交換会Ⅱ(活動事例・都道府県支部の取り組み)に対する期待度が約75%、そして、「懇親会プログラムは有意義だった」との回答が約85%、総じて、「本大会に参加して有意義だった」との回答が約88%となっており、次の「事業評価」と合わせると、概ね開催目的は果たせたと思っております。

民間・企業部門といたしましては、この全国大会から得た教訓をもとに、令和2年度に向けて次の一手を模索している中、新型コロナウイルス蔓延が全世界を襲ってきました。民間・企業人の同窓生も、大きな影響を受けられたことと思います。今後、コロナ収束後に向けて次のステップに繋ぐ方策を考えて参りますので、今後とも宜しくお願いいたします。

事業評価について

初めての取り組みであり、今後のあり方・方向性を探るため、本部では当日の運営に参加したブロック代表副会長等による事業評価を実施しました。評価項目は次の15項目としました。
また、「評価項目」に分類し、評価者の個別記入シートを回収して整理した結果は「別表」の通りです。

評価項目

- 1 事業の目的・意義は有効であったか。
- 2 事業の目標は明確であったか。
- 3 実施主体(民間・企業部門主催)は適切であったか。
- 4 対象者(支部企業人代表者)は妥当であったか。
- 5 参加者(上記プラス支部・一般希望者)にとって有益であったか。
- 6 内容(大会プログラム及び懇親会)は適切であったか。
- 7 実施時期・日時・時間帯は適切であったか。
- 8 開催場所(1401教室及び青葉台フォーラム)は適切であったか。
- 9 運営スタッフ(本部役員・事務局・学生数名)の人数は十分だったか。
- 10 参加者の満足度はどうだったか。
- 11 必要な物品は用意できていたか。
- 12 予算は適切であったか(支部代表者1名分の旅費・宿泊費を本部負担。懇親会費6千円は自己負担)
- 13 事業の成果は評価できるか。
- 14 事業継続の必要があるか。継続する場合、どのようなサイクルで実施する必要があるか。
- 15 今後、民間・企業関連事業や取り組みとして必要なものは何か。

別表

No.	項目	事業活動の概要	活動評価の観点	自己評価 (評価:企業部門)	外部評価 (評価:同窓会)	項目別 評価
1	事業の目的・意義は有効であったか。	目的・意義(「日体」)を明確にし、今後検討する。継続の予定あり。	事業の目的・意義は有効か。検討時期は適切か。	◎	◎	S
2	事業の目標は明確であったか。	目的・意義(「日体」)を明確にし、今後検討する。継続の予定あり。	事業の目的・意義は有効か。検討時期は適切か。	◎	◎	S
3	実施主体(民間・企業部門主催)は適切であったか。	民間・企業部門(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	実施主体は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	B
4	対象者(支部企業人代表者)は妥当であったか。	支部企業人代表者(「日体」)が対象。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	対象者は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
5	参加者(上記プラス支部・一般希望者)にとって有益であったか。	支部企業人代表者(「日体」)が対象。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	参加者は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
6	内容(大会プログラム及び懇親会)は適切であったか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	活動の内容は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
7	実施時期・日時・時間帯は適切であったか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	実施時期・日時・時間帯は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
8	開催場所(1401教室及び青葉台フォーラム)は適切であったか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	開催場所は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
9	運営スタッフ(本部役員・事務局・学生数名)の人数は十分だったか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	運営スタッフは適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
10	参加者の満足度はどうだったか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	参加者の満足度は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
11	必要な物品は用意できていたか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	必要な物品は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
12	予算は適切であったか(支部代表者1名分の旅費・宿泊費を本部負担。懇親会費6千円は自己負担)	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	予算は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
13	事業の成果は評価できるか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	事業の成果は適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
14	事業継続の必要があるか。継続する場合、どのようなサイクルで実施する必要があるか。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	事業継続の必要があるか。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A
15	今後、民間・企業関連事業や取り組みとして必要なものは何か。	大会(「日体」)が主催。企業人代表者への対応(民間・企業人の交流)が十分だった。	今後の取り組みは適切か。協賛の役割と責任は適切か。	◎	◎	A

また、参加者アンケートに見られた示唆的な意見を以下に抜粋しますので、参考にいただければ有難く存じます。

参加者の意見(抜粋)

開催目的

- 民間・企業人の参加促進に向けて、一歩を踏み出した意義は大きい。
- 5学部9学科になり、キャリアは一層多様化する。地元でどのように遇していくか、これまで支えてきた方々(教員等)と協力しつつ、企業人が気兼ねなく活躍できる土壌をつくるのが重要。

時期・場所

- 11月2日の日体フェスティバルに重ねた開催は、メリット・デメリット両面があったのではないかと。

実施主体

- 学生への直接的な支援を目指すなら、教員採用に向けた取り組みと同様、大学当局との連携が不可欠。大学との共催ができれば、さらに発展するのではないかと。
- 同窓会と大学が連携を密にして「学生をサポートする仕組み」が出来たらよい。
- 大学のニーズと同窓会の役割が一致していくことが必要。

形態・内容

- 一堂に会するのは大変。ブロック単位での開催や活発化を考えたらどうか。
- 支部の取り組みや実践事例を中央に持ち寄り、今後の活動に生かしたい。
- 小集団によるグループ協議(業種別等)、ブロックごとの話し合いなど、工夫が求められる。

課題等

- 現状では、民間・企業人の所在を把握し、かつ彼らが同窓会に積極的に参加している支部は多くない。支部の意識や運営面の改革、人材発掘などが課題。
- 成果をいかに各支部に落とし込んでいくか、同窓会の命運がかかっている。
- 支部内のネットワーク拡大には、複数のリーダーが必要。(次回行なうなら)今回とは別な参加者を募り、あまり間隔を空けずに実施するのがよい。
- その他…保護会と歩調を合わせた推進、今後の開催については、隔年、2～3年に1回、軌道に乗るまで3～5年程度は強力に推進、目的を見直しながら継続、などの意見があった。



参加者集合写真

当日の様子は、同窓会ホームページ「Nittai Alumni (日体アラムナイ)」で、動画を交えて紹介していますので、併せてご覧いただければ幸いです。
<https://www.nittai-club.com/>



同窓会誌発行協力金について－御礼

「日體人」第8号にてお願いいたしました協力金につきまして、これまでに約1,400名の方々からご支援をいただきました。ここに皆様方のご協力に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込め、お名前を記させていただきます。

黒木豊助、山中章市、佐々木利平、井元文治、武富龍二、今井まち子、赤星秀年、阿波加孝作、鯨山久子、坂口美代子、永田生江、柳田彰、小野博、萩原一次、星野百合子、福井不二男、岡田忠之助、森静夫、小池春雄、赤川堅蔵、中澤正己、平田幸男、時枝末六、赤星朋昭、吉田邦子、岩崎三樹、工藤友記子、藤崎泰助、那須邦弘、山本洋市、毛江田久雄、鎌口蓮、酒井治、大片恵美子、山根杉雄、松熊宏明、中尾友彦、花岡勉、佐藤公美子、鎌田章、飯田金一郎、松永美成、尾野嵩、西吉高、中田松三郎、佐藤シズカ、渡邊セツ子、板屋清孝、金当国臣、服部俊、居駒永美、岡田信之、内田勇、渡邊勇一、伊藤三重子、川島久美子、今井順子、加藤俊也、西島利一、堀勲、本多整、岬一夫、花房房子、竹間洋子、川中弘幸、小澤喜久江、山本恒夫、堀田誠、崎野次雄、石橋博子、小柳正照、森豊夫、馬場勇、塔尾武夫、設楽善彦、岩波和雄、池永武昭、川村千枝、斉藤幸枝、山本猛、島田美代、岡宮敬之助、鈴木康夫、三浦展廣、竹本正雄、坂井弘子、柳井義通、金崎康矩、大久保義高、松田元雄、河野宗夫、外越俊和、結城武則、小尾宏子、小林峰子、三宅啓子、山崎澄子、伊藤町子、松田弘、高貫洋子、眞如紀子、渡辺哲也、田中稔、村山美和、永田重郎、伊藤君代、金沢睦、尾板誠、藤本務、辻清也、藤井證、土谷里子、岡野年江、新井嘉壽美、柴田俊章、光下正康、大西茂子、渡邊増男、村田光弘、小野純由、青柳正志、曾根田幸代、田中國義、永測信義、扇山博人、中村昭男、渡邊信一、賀久ハル子、福井正幸、井戸英樹、吉武利当、齋藤勝、鮎村清司、磯部賢次、岩下聆、荻原迪彦、角田幸代、久保田のぶ子、笹原隆、谷敏子、土谷秀雄、小川紀子、木村誠、宮本至、渡部晴行、首藤昌也、板山勝城、桑原桂立、松瀬浩、富吉和男、許田重正、小堀俊子、浦田節子、中村隆夫、小嶋笙子、浦田嬋子、小谷麗子、森山佳代子、鈴木則行、秋戸静子、山田弘、井戸獅子、前東昭、鈴木存、千葉吟子、大澤久子、安藤喜代子、柴野恒夫、小嶋龍次、小林哲雄、智賀英裕、吉川眞實、上田由佐子、小川紀代子、上川正明、錦織昭十四、向本一行、森重祐輔、中村典男、池元啓朗、武本雅勇、櫻間幸次、止野正信、瀬口一利、伊藤正親、作田末義、作田ヒロ子、鳥袋光枝、徳前啓人、浅井大忠、加藤隆、宮崎忠治、多田順一、松野靖臣、出口節、永井薫、柴田勝夫、木村勝利、奈良井宏美、八代和男、池浦孝、小島勇夫、平野正夫、平井玲子、西村一信、井山勝子、山根洋壮、三上剛、中本厚生、朝井正敏、渡部滯子、宇野由男、真木崇、北崎晴美、樋口龍之、今村貴久子、塘田昭紀、笹本勝義、野添哲美、末吉敏子、新垣健、面野支津代、高木義則、塩崎親宏、榎本和男、河西瑞枝、舛巴照、小枝兼悦、前多正彦、松本紘一、高山建治朗、山崎靖雄、上平雅史、伊澤俊彦、仁谷秀夫、上野栄子、深澤英雄、河村俊彦、河村サダエ、八木ほづみ、辻田康之、清水忠和、渡部久美子、濱崎伸一郎、西川美代子、中村紘一、金谷公夫、牧野正史、井山充弘、西川弘志、田平一眺、三原征男、三原江美子、三浦薫、倉岡紀史、五島昌明、清川守弘、瀬口俊光、山内則李、甲木武臣、岩本浩、錦戸俊平、島田雅州、宮本紀夫、澁谷裕子、渡辺和夫、丸田卯禮男、長崎桂子、三引義晴、木原勝之、岸野載子、小澤正雄、高嶋章、荘司昭夫、升屋文夫、金森幸志、須藤宏、春藤英徳、野中庸旦、月岡靖夫、鈴木洋一、玉田靖人、佐久間剛、今泉尚人、松山光志、吉田文弥、菊尾俊、吉川美枝子、木村政美、中内英明、岡崎佐知子、近藤士、二ノ宮泰則、後藤正之助、田口美樹子、大津武俊、牛島英樹、香月輝一、高本啓功、高須美穂子、赤塚辰郎、三田村一弘、上山良昭、村上海南江、今井梢、餅田茂、月館智恵子、石川静哉、川村俊明、山口久夫、中島晴規、瀧澤康二、山崎博明、宍戸進、大山象二郎、小池一好、池谷孝子、栗原昌子、鈴木晨弘、庄司久男、西口昭徳、武藤紀久、生澤正隆、木下昭雄、山田正夫、中尾隆、渡部光昭、多久文則、鳥住克子、天野博臣、大塚紘一、山本洋子、福島俊一、東風上薫、金元久美子、中村冷土、武本喜久代、久保山昇、野口一英、森川敦子、内橋正明、高田修治、重枝和洋、黒川勇雄、中宮洋二、田口七郎、赤嶺良光、藤田忠雄、金森清明、宇野峰子、竹内正雄、佐藤孝志、菅野良則、菊池ヤエ子、串間平三郎、今野陸夫、迫嘉邦、越水清、梅村寿一、竹内功、鳥津正昭、村松政校、中嶋雅己、佐伯洋子、澁田勝彦、市橋敬典、竹本孝子、平田徹、兒玉邦彦、奥原滯子、松田満洲男、今村正博、三代洋三、吉松諒、黒木靖典、鈴木三郎、渡部俊夫、栗田崇、齊藤修平、今野靖政、鍛冶澤守、大石巧造、細川完、串間満子、中根健司、種村輝男、竹田智二、林勝彦、山崎春江、内藤克己、今西文武、東由喜子、山根武、上田正次、

阪本勝彦、三宅香、末井健作、小豆澤盾、新宮和彦、谷口和子、小倉洋子、勝村靖夫、城戸眞勝、桑原英昭、五十嵐洋、大内武彦、友松正幸、廣島忠士、梶田政昭、坂本兼博、福田芳枝、井原渉、木村正、塚田泰志、赤石眞一、川井忠彦、加賀静枝、池野三義、小川幸三、野々山昭夫、江藤孜、藤原三津男、城戸啓一郎、御所窪正義、佐々木憲士、神谷美恵子、村松靖夫、服部暢和、高垣勝平、飯田加代子、角野伸次、福島弘、金築健二、田村正美、山田信、小笠原健一、松本健治、吉良恵介、松本弘二、堀晋之丞、兼子春美、長井忠道、阿部登記造、中田あい子、酒井治子、吉村辰明、堀川永蔵、柴田鐵四郎、高田和男、八戸秀男、紺屋正雄、佐藤忠吉、川口法正、高橋和志、台正知、内山富之、鈴木照久、大澤満里子、柳下吾郎、津下英子、白井徹男、秋月次郎、古本幸治、五島豊八朗、長井英子、作本敏彦、宮保滋、中沖克美、大石敏夫、成田道子、宮地善道、鍵市勝秀、三ヶ田紀夫、松浪健四郎、石邑八重子、市川善章、大貫友彦、佐々木秀治、植松初美、水野和明、村居一也、中村典子、津熊美智子、佐納世吉子、明貝繁、楠正彦、本庄義治、佐田一夫、岡本邦彦、倉岡克栄、佐倉弘之甫、野間英雄、田窪徹、中山博道、大津修郎、和佐野健吾、秋峯良二、坂井充、岸川弘、椛山伸也、山野利光、神崗篤、菅間季弘、石澤宣子、桜庭清徳、江口正信、斎藤和子、笹木正信、村崎正司、岸本道昌、松本義博、関口一眞、大友稔昭、渡辺悟、山本秀治、向山正俊、根本谷信一、杉村敏英、小木野東、市野光康、伊藤喜久治、長谷川浩一、岩谷元紀、梅田修二、出射省一、山田政明、森田良典、足羽博行、野村利光、柿谷博行、古本幸治・文恵、近藤芳夫、大場重博、松口鈴子、五島三江、中山憲史、田之上茂己、志々場修二、柿島誠一、村上哲夫、里義信、斎藤久男、鎌田義人、小笠原眞理子、角崎敏雄、西谷義廣、見方益夫、赤堀実、小嶋啓道、藤原秀樹、加藤栄一、田代栄二、小倉培夫、小島益男、山本松枝、大野道夫、上原正一、小林幸次、清水建治、近藤伸明、砂山孝一、佐山正、三浦うた子、波多野壽、小林孝史、九茂康子、福岡重信、長谷川雅清、正文文雄、山中義照、繁原修、中村旗四士、丸興健一、古井弘人、松崎文雄、東山克明、藤岡敬二郎、浦川康徳、久保英行、近藤数信、酒井春美、村上みな子、二田隆、金子良雄、中田曜子、福土正敏、太田政義、小野英樹、阿久根英昭、岡本幸子、小早川ゆり、鈴木一、宮崎弘子、大沢興助、向井廣志、當間準三、島山文雄、藤本俊、山村登、榎本恵子、瀧山由美子、渡邊宗治郎、高坂美恵子、比嘉悟、栗原榮、福澤美恵子、日下部みどり、篠原重義、谷岡憲三、梅森雅彦、吉田忠生、高屋英人、吉岡成、上野雄二・雅子、高本文夫、竹原英治、佐藤青史、阿南憲治、山崎洋一、今堀公夫、益山厚、嶋田ひろみ、富田俊実、難波信昭、外館静代、榎本眞智子、園田有司、真崎晶一、堀出一夫、三瓶健一、竹内義雄、宇田嘉隆、細澤寛、入山幸子、林和代、小野由紀子、辻鎮雄、笹岡宣明、高瀬則光、方井正隆、林孝子、田邊久栄、志水貢一、田中修、前田淑子、古川昭生、宮川潤司、重国修、西山由美子、大岩賢次、八尋重昭、田原憲二、有田浩、松尾礼子、松尾龍美、宮原照彦、川添哲雄、茂田幸高、松本幸、金城盛徳、大城昇、河合誠、小森勇、中野登、小川節子、荘司敏博、塩谷和雄、角杉美恵子、長島邦彦、高田幸一、大山裕一郎、丹野寛、渡辺千恵子、里見美彦、仲澤進、石橋正博、進土司、村松英子、松田清孝、新宅幸憲、細田昇、久本信子、奥田勇治、岡上國治、藤井晃二、富山良一、相本健治、八木繁喜、宇治常春、米丸浩文、北山眞理、稲沢万里子、山村和恵、畑孝子、柴岡三千夫、山寺忠之、菅野肇、田代美紀子、井川ゆみ子、中島稔、三上和男、沖野英逸、依田正輝、小田切和彦、鈴木功、中島千明、矢島孝貞、横野均、埴岡俊一、前田学、谷本和子、森下孝生、前田香津美、松田博子、潮見真有美、澤田正義、荒木和謙、川原康嗣、溜美恵子、上原恵美子、小餅谷幸博、田中真智子、菊部望、柘植美之、齊藤和子、半田忠、高橋範夫、佐藤喜和子、杉崎勝之、小泉政貴、井上晔、赤澤稔、相馬健司、中川浩子、池田和弘、小林直樹、片瀬徹、青山勇二、曾我栄作、正木仁、伊野博子、石飛誠治、湯浅光範、細内正彦、案野克彦、澄川真寿美、宮原慶子、今村よし恵、西松策浩、下拂豊志、上田智加子、粟田淳子、鈴木淳一、廣谷隆、菊地武良、戸田正明、軽米満世、軽米良臣、種山保司、土田正行、関川隆、小暮三恵、牧野竹子、及川哲、原田康弘、片須雄一、落合直人、山崎隆雄、河合敏次、小川真一郎、柴田一則、岡田正信、大坪義平、太田好則、大西和雄、池田修二、村上英明、北中純一、吉松志保、石本義隆、因幡和昭、

大浪康司、藤原英志、梅田尚男、中尾泰弘、井川晃治、豊田修治、斗高克敏、赤星秀子、光岡博、坂元耕作、竹下正人、前田義文、飯室治夫、岡安國雄、榎戸康、野口洋治、成塚誠司、菊池毅彦、佐藤由姫、北村礼子、北村泰光、飯田瑞穂、杉本芳和、中垣光弘、草野恵多、菅原福子、飯田良平、民野尚義、上村桂司、堤能理子、吉田和裕、平位秀敏、木下勝政、小林昌彦、福元由子、亀田博人、畑下栄志、小松史幸、村山一郎、柴田衛、大西修、鈴木幸、山内信之、林秋子、諸星明彦、柴田洋介、丸山近、伊藤公英、川島章男、大西伸弘、今井芳治、渡部求、山田耕二、荒川洋一、中禮雅治、菅間季昌、鎌仲正寿、竹原勝博、武藤千賀子、上杉英文、工藤紳吾、中木克明、土岐真弓、福永いづみ、藤崎満、小嶋日出子、原勝人、太田仁美、中村丈、齋藤好史、吉田真巳都、斎戸俊士、江草信行、矢山精一、川本有美、亀川浩、岡本恵和、大峯淳子、竹川まゆみ、高橋政敏、井上仁志、山崎聖子、岩崎修、関村幸子、佐々木雅恵、高田佳朗、石原匡、田口孝男、又村秀、鈴木一也、島山浩、高野庸夫、平井博司、奥谷彰男、岡田光司、一瀬美恵子、田邊浩二、嘉原唱光、東仲芳和、北峯照之、中谷契己、高畑卓志、辻寿子、中野繁、大浪定之、村上健二、面田孝、大庭公正、田上義明、福嶋美文、上杉芳泰、斉藤保志、老月守、池田伸二、加藤信二、瀬戸徳美、竹内寿夫、山本暢三、吉田敦一、後藤克幸、宮澤宗太郎、山下修平、粕谷守、大野芳樹、田中健司、橋本裕之、曾根幹雄、峯隆幸、山本常夫、桂田美範、庄司一也、石場隆雄、高橋勝美、倉田昭人、大山佳子、中村智、井川修、山角厚志、岩川泰己、村松喜一郎、永田健治、浅井俊雄、今井一三、藤田悦司、魚澄豊治、奥村一宏、和田耕三、原川信、大田敏典、兵頭龍哉、有村孝志、島田広幸、柳田友浩、高山和徳、飯塚幸子、西山宏、川崎芳徳、松山祥子、築地美樹、山本憲司、古谷章、山根浩一、西岡眞也、北里暁子、松藤義文、田島浩紀、杉浦春雄、太田久人、大谷州央、國吉康代、松本公一、田中和幸、白鳥勝士、山本誠司、佐藤丈能、大門和美、森本克隆、井手口孝、日高祐次、山崎清貴、竹之内徹、大家義浩、岡村智之、齋藤秀樹、三浦和也、渡邊豊、の場高敏、竹園雅一、仲谷龍太郎、平澤淳、小原伸也、山根義文、中川正士、樋口裕志、重森昇、三浦秀行、井上文彰、菊地啓子、田中克明、高塚純子、成田孝、深澤健、柳等、丹澤康、金子佳幸、山岸秀規、才川力也、斎岡香里、小林晋、長谷部剛、山室晶司、松本文弘、源場康広、前田秀尚、高藤誠、早川昌吾、西村寛久、堀江幸弘、砂原松己、岡崎雪華、町田信行、木村博之、三浦英人、野田克弘、益子久、別府健至、草柳伸、久保田雅人、上坪聡、木本恭嗣、石川健二、田中みどり、梶尾延行、三好信隆、西尾勝利、佐藤聖子、伊藤淳、河合英子、二宮加代子、太田勝之、岩田ゆき乃、茨木基良、高濱正紀、山田智己、島袋晴美、佐藤公豊、水谷秀樹、清水健司、小澤由子、三嶋孝彰、小松満、谷川原宏一、立岩京子、片尾一美、秋元京子、小路正和、石津光保、二橋由雄、近藤田都哉、寺下行磨、高本真人、森川智司、森岡由美、三田井秀信、文野政憲、藤田桂子、柳原弘文、中津川澄男、丸本和年、久朗津義晃、山本憲志、幡野明弘、松盛寿子、渡邊明美、大岩辰裕、中田典子、相原敏江、藪崎洋、大霜安裕、渡部治人、岡村菜津子、高附安仁、田中久年、井野場静代、角井寿光、西山亜矢子、小島輝夫、渡辺紀子、角田進、樋幹生、河村智可、長崎祥子、塩谷伸晴、辻孝博、宍道美徳、山野井進治、中田知邦、宗形圭、武岡イネス恵美子、青木宏治、三田英郎、藤田浩道、大湊英彦、

同窓会誌発行協力金のお願い

今回の「日體人」発行にあたり、同窓会活動と母校の近況をお知らせするとともに会員相互の親睦を図るため、お届けいたします。本誌以降の誌面充実に向けて、引き続き協力金(2,000円)を募りますので、ご協力をお願い申し上げます。

1. 同封の振込用紙にてご協力いただける場合

必要事項をご記入のうえ、通信欄に「卒業年(○○年3月卒業)」をお書きいただき、郵便局よりお振込くださるようお願いします。

以前、協力金納入にご協力を賜りました方には、払込票にご住所等の情報を印字、コンビニでのご入金が可能なるバーコードを表記しております。引き続き、ご協力いただけますと幸甚です。

2. クレジットカードにてご協力いただける場合

今号よりクレジットカード払いにてご協力いただくことが可能となりました。

https://salat.club/nittaidai/

佐々木敏夫、須田悦正、中野清治、堀尾宏治、則竹真二、坂本宏一、森下浩、松尾佳子、松尾弘憲、福原博、園田照子、谷脇卓、矢山裕明、井上淳一、渡辺直樹、綾部健、村木元、川嶋仁、大野哲兒、菅野輝史、城井秀光、未安真次、竹森良子、米田哲也、金子峰、小野徳子、野村忠信、朝倉工、木下智宏、高橋啓伸、荻裕亨、朝田浩成、林田克樹、溝口貴之、服部融法、勝俣敏史、坂本欣弥、坂東隆之、江端麻美、郡司祥、佐久間雄太、布施順寛、植月文隆、成田郁子、津志田静徳、鶴沼憲宏、廣瀬元、兼平賢一郎、太田秀昭、上村崇、川口信明、矢野恒宏、野村和生、高橋クミ、篠原安芸、脇若綾、上田大、小野木史絵、神保幸次郎、熊谷洋、中原知美、小嶋新太、溝口貴代、長坂亮、市川博章、石井宏人、柳田祐造、佐藤仁美、土屋知子、佐々木千恵、岩村悌二郎、中村英登、黒沼広、森康敏、加藤純弥、齋藤さつき、上田剛史、有場亮介、平井寿英、小嶋俊吾、加藤直浩、高橋未明、山口深雪、福島沙織、山村千宮、大野倫典、中野章臣、鈴木洋一、近藤一真、南部智之、荻原まりな、中西浩二、松村陽子、宮本一輝、霜村孝、奥村太一、井上雅也、宗政徳道、吉田裕、角杉直美、關川輝之、山本絵美、平野慎理、青山三智子、篠宮剛、外村修一郎、植田俊介、小木曾剛之、森達也、太田亜矢子、堀大孝、長谷川綾、本橋慶彦、小田祐介、鈴木世良、若杉鋼洋、川上由美子、高橋秀和、三浦洋美、江口朝永、鈴木紀子、柏原幸生、平岩東、後藤宣広、城将樹、野中謙太、長友辰雄、小林浩司、佐々木信広、高橋寿恵、荻原大士、伊藤典明、中島あゆみ、宮崎大伍、嶋田榛夏、高田秀一、横史明、辻井雄亮、東根忠助、白石精子、藤嶋敬朝、野口大輔、人見将司、齊藤登美子、中西順子、石田直子、原田正之、久保岡諭司、古茶翔、島山静香、柳原瑞樹、首藤文子、橋本立輝、葛西景子、大串有高、越原祥光、加瀬弘樹、淺沼航平、高橋千郷、山内健太郎、鈴木信吾、藤田ひろ子、信太弘樹、滝川翔、澤田政彦、矢山奈保美、玉名光史郎、池田かすみ、岩本江利香、橋本祐伊知、田村宇史、中岡洋子、下和田翔平、吉梅龍、堤浩利、玉城万里、西盛大地、細川陽子、祝弘樹、鈴木華子、小菅由香、箱山愛香、大川隆樹、朝倉健、廣松公乃助、櫻井義之介、遠藤有希、半澤庄多、菓山太智、伊藤あゆみ、佐々木晶生、奥山瑞樹、堀川太一、山本智貴、富島誠司、黒木瑠璃華、橋本拓実、岡田曹志、関内瑛、筑間友久シェファン、篠田和也、岩瀬拓也、寺澤晶尊、篠原総太、鈴木章策、中田秀人、青砥童心、恵良友也、米永源、島畑奈緒子、小林竜人、大柳孝紀、安田絢恵、佐川元太、仲田誠、菅沼賢一、平野浩太郎、野崎雅貴、玉谷昂介、栗山知香、石井弥沙、西川遥香、小林泰正、杉浦真由海、池田祐里佳、大久保貴宏、細見広太、棟田佑哉、山口直幸、川上涼太郎、甲斐義也、黒川秀雄、木村圭佑、永山航、近藤静也、関根佑、足立聖弥、不破俊典、一井東希、奥卓志、前田恒祐、石川勇二、文原由裕、植村絵里香、小松凌介、佐野尚哉、川口巧、布施智也、山崎公平、高木良哉、上坂輝、永田彩、秋吉健太、千葉醇也、石田一貴、市江優実、金成、米山祥央、梶山優里、宝富嗣、吉田寛生、中西健太郎、横郁香、小菅由波、藤井古都里、稲山瑞季、宮内宗一朗、元嶋ひかり、佐藤恭也、佐野馨、清原梨織、藤田幸、八田未央、末吉龍太、東妻勇輔、角夕記、松井友汰、安井佑斗、荻野創、金澤祐治、植松航太、小林直美、鈴木可奈、荒木美徳



※旧姓や学籍番号等、ご記載いただけますと助かります。

日体大アスリートサポートシステム・NASS

日体大アスリートサポートシステム(以下、NASS)は、「本学学生の競技力向上に貢献すること」を目的として2014年に活動をスタートしました。ハイパフォーマンスセンターの主管事業であるNASSは、日体大独自の学生アスリート支援システムであり、これまで本学が蓄積してきた競技力向上の知識を集結させ、様々な領域の専門家が連携しながら多岐にわたるサポートを実施しています。NASSは、医・科学サポート、パラアスリートサポート、コーチングサポートから構成されており、幅広い知識を持つ専門家が学生アスリートの可能性を広げるための支援を行っています。その中で医・科学サポートは、以下の6部門から構成されており、競技レベルに応じたサポートを展開しています。



1 パフォーマンス分析

瞬発力や持久力などの身体能力を測定・評価するフィットネスチェックサポートやビデオ映像を利用した動作分析、ゲームパフォーマンス分析を行う映像・情報技術サポートを行います。

2 トレーニング

スポーツ・トレーニングセンターを中心にトレーニングに精通する研究室が連携し、競技種目の特性やクラブの強化目標に応じてパフォーマンス向上に必要な体力を養うためのトレーニングプログラムを提案・提供・指導します。

3 メディカル

スポーツ医学、アスレティックトレーニングに関する教員とアスレティックデパートメントのスポーツ医・科学サポートスタッフ、日体大クリニックとの連携・協力により、スポーツ外傷・障害の予防やアスレティックリハビリテーションなどを行います。

4 心理

スポーツ心理学や臨床心理学の専門家が選手の特性や状況に合わせて心理サポートを提供し、自分で考え、自己調整ができる、自己管理能力の高い選手の育成を目指しています。

5 栄養

食事の状況だけでなく、身体組成などもあわせたアセスメントによって栄養状態を確認します。競技目標を達成するために、自ら適切な栄養管理ができるよう支援を行います。

6 女性アスリート

女性特有の課題に対応したプログラム構築の支援を行います。女性の身体的特性を考慮したコンディショニングやトレーニングプログラムを取り入れ、競技力向上を目指します。



NASSにおけるサポート活動には、スタッフ育成セミナーなどを受講した学部生や大学院生も関わっています。競技スポーツには、「する」だけでなく「ささえる」という関わり方もあります。講義で学び身に付けた専門的な知識をすぐにスポーツ現場で役立たせることができるのは日体大ならではの強みです。

今後も本学から国際的に活躍する多くのアスリートを輩出すべく、オール日体大体制による組織的医・科学サポートを展開し、競技力向上(ハイパフォーマンス)につながる支援システムの構築に努めていく所存です。

ハイパフォーマンスセンター長 大本 洋嗣



◀リーフレットのダウンロードはコチラから

https://www.nittai.ac.jp/about/approach/ad/2020nass_leaflet.pdf



求めて学び 耐えて鍛え
学んでこれを活かす



1人1台タブレット端末



2019年PC教室改修完了

新時代を生きる

令和2年度 日本体育大学進学者 117名

難関大学への現役合格を目指す

アカデミックコース

大学・専門学校への進学を目指す

進学コース

体育系大学への進学を目指す

体育コース

〒146-8588 東京都大田区池上8-26-1 TEL 03-3759-3291 <https://nittai-ebara.jp/>



New OHKA Project

桜華の進化

New OHKA Project 01

週6日制から週5日制へ

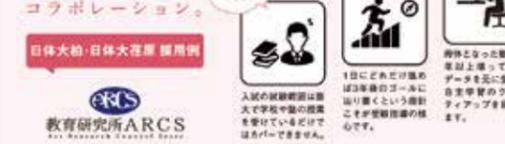
土曜日の自由度を高め、学習、スポーツの強化を進めます。



New OHKA Project 03

校内塾・予備校導入

教師と塾講師のコラボレーション。



New OHKA Project 02

特別進学クラス新設
アドバンスコース

国公立大学、難関私立大学への現役合格を目指すクラスを新設します。

少人数制 ICT教育



New OHKA Project 04

グローバル化

留学生の受け入れ、国際理解教育の積極推進で、地球規模の視野を育みます。



Nittaidai
Kashiwa

新しい学び(AL・DL)で
文武両道を極める

健信寮



難関大学現役合格にチャレンジ
アドバンスコース

夢の実現に向けステップアップ
進学コース

未来のスポーツリーダーを養成
アスリートコース

令和2年度 日本体育大学進学者 33名

正しく
明るく
仲良く



校舎

寄宿舎



学校法人 日本体育大学

日本体育大学附属高等支援学校

〒093-0045 北海道網走市大曲1丁目6番1号 TEL: 0152-67-9141 <http://s-nittai.ed.jp/>

2021年、浜松日体中学校は創立20周年を迎えます



勉強としつけの学校

中高一貫コース

選抜コース I類

選抜コース II類

文理コース

校訓

積志力行 清節篤行 「地域に愛されグローバルに活躍する人材が育つ学校」を目指す



浜松日体中・高等学校

〒431-3125 静岡県浜松市東区半田山三丁目30番1号 [TEL]053-434-0632 [FAX]053-433-7680 [E-mail]info@h-nittai.ed.jp [Web]https://www.h-nittai.ed.jp/

健康第一主義

教育理念は、「健康第一主義」です。

子どもたちが心身共に健康に成長していくための支援を教職員一丸となって行っています。



学校法人日本体育大学 日体幼稚園

〒158-0081 東京都世田谷区深沢8丁目4番1号

Tel 03-3701-4450 Fax 03-3701-9955 <https://nittai-kindergarten.ed.jp/>



日本体育大学医療専門学校

〒158-0097 東京都世田谷区用賀 2-2-7 TEL : 03-5717-6161 https://www.nittai-iryō.ac.jp/

詳細な
学校情報は→



日体大世田谷
キャンパスより
徒歩10分



歯科衛生コース
(口腔健康学科)

柔道整復コース
(整復健康学科)

日本体育大学の卒業生は**入学金全額免除**となります。

株式会社日体サービス

(学校法人日本体育大学 100%出資)

学生サポートデスク(日体サービス)は、日体グループのみなさんをサポートいたします。

学生サポートデスク(日本体育大学 東京・世田谷キャンパス、横浜・健志台キャンパス内)の取扱品目一覧(抜粋)

旅行
国内外
各種手配

格安航空券
国内・海外の
お買い得満載!!

ゼミ・合宿・貸切バス
サークル
グループ旅行

受験生の宿
交通の便が
良い宿などご案内

**アパート・マンション
一人暮らしサポート**

運転免許 通学・合宿もお得

眼鏡コンタクトレンズ
日体大限定クーポンも!!

オフィシャル名刺
日体大ロゴ入り名刺

資格取得学校
こちらでお申込み
頂くと特典有り

学生保険
万が一に備える
安心のプランを

英会話・留学学校
予算なども
お気軽にご相談ください

宅配買取サービス
お家で簡単!
日体大優待も!

※上記サービス内容において、手配・紹介・斡旋・取次業務を行っています。

▶▶▶ 詳細なお問い合わせは

東京・世田谷キャンパス TEL : 03-6893-2221 FAX : 03-5707-1130

横浜・健志台キャンパス TEL : 045-482-3118 FAX : 045-482-3138

E-mail : gakusei@support-dsk.jp ※営業時間 9:00 ~ 17:00(月~金) ※休業日 土・日・祝日

思い出のページを彩る
快適なひと時を。

CITY ACCESS SAGAMI



観光・貸切・送迎バスのことなら

CITY ACCESS SAGAMI

シティアクセス相模



豊富な車種を取り揃えておりますので用途に合ったバスをお選び頂けます!

詳しくはHPにて!